

【佳作】

「お互いに寄りそって」

北海道教育大学附属釧路中学校

2年 岩城 妃奈

「北方領土返還のためには戦争をしなければいけない。」

数ヶ月前にとある国会議員の方がこのような発言をしました。私はこのいわゆる「戦争発言」を聞いたとき、少なからず反感を抱きました。これは、元島民の方々を深く傷つけるものだと思います。

北海道、特に道東に住む私にとって、北方領土問題というのは他の地域に住む人たちと比べると、かなり身近に感じられるものです。だから、その議員の方にとっても、ことさら悪意があったわけではなく、解決の方法を見いだせず、いたずらに月日が過ぎているだけの現状を何とかしたいと思った故の発言だったのだと思います。私も、良い解決法を訊かれも、パツとは出てきません。それだけ私たちが思っているよりずっと困難なものなのだと思います。

もともと、北方領土は戦争によってソ連に占拠されました。しかし、一部のソ連の人々と日本人は友好的に過ごしていたそうです。それなら、戦争なんかしなくても北方領土の返還は可能なのではないかと思います。

そもそも、北方領土問題について、ロシア側と日本側、また国同士の関係と民間同士の関係では相違があるように思います。実際、返還を求める日本人は多く、署名などの活動も盛んです。ロシア側については、会談やビザなし交流に応じてくれています。民間レベルでは、友好的な関係を築けているのだから、まずはもっとお互いを知っていくことが大切だと思います。

私はこの間、北方領土返還要求の署名に参加しました。二ページにもわたって多くの人の名前が記されているのを見て、温かい気持ちになりました。「一人ひとりの意識」というのは大切だと思います。でもただ「活動に参加した」という自己満足にはなってはいけないと思います。ただ署名するだけでなく、意識して考えることが、活動を意味のあるものにし、ひいては北方領土返還に繋がるのではないのでしょうか。

戦争で奪われた領土は、戦争で奪い返すべきなのか。私は戦争をしなくても良いと思います。人はいつか分かり合えると思います。それに、武力で解決したとして、それでは、多くの犠牲者を出し、北方領土に住んでいたロシアの人々の居場所も奪うことになってしまいます。同じ出来事の繰り返しです。悲劇を繰り返さないためにも、地道にできることをしていくことが大切だと思います。

日本人とロシア人。今の交流をもっと深めて、日本とロシア、国対国が民間と同じように寄りそい合って歩んでいけるような未来、そんな日が来ることを、私は願っています。